

第十六回自由律俳句フォーラム

(主催) 東京自由律俳句会

平成二十八年五月二十八日

江東区芭蕉記念館分館会議室

◆参加者名簿（○印は当日参加者です）

渥美ゆかり（海紅「阿良野句会」）

井尾 良子（ロマネコンテ）

石川 聡（海紅・東京）

大川 崇譜（海紅・東京）

○小笠原玉虫（海紅「海紅社句会」）

○小澤 温（海紅「海紅社句会」）

笠原マヒト（海紅「大阪」）

梶原 由紀（海紅「海紅社句会」）

萱沼 良行（「層雲」「ぎんなん」）

○黒瀬 文子（「天街」「しらゆり句会」）

小山 智庸（海紅「かみなり社」）

○佐瀬 広隆（「層雲」・「ぎんなん」）

島田 茶々（「層雲」・「ぎんなん」）

- 白松いちろう(「群妙」・「ぎんなん」)
菅原 瓊子 (海紅・秋田)
杉本ゆきこ (海紅・東京)
鈴木 和枝 (「さんしょ」)
○そねだゆ (「草原」・「ぎんなん」 他)
高橋登紀夫 (海紅「かも川吟社」)
○田中 耕司 (海紅「海紅社句会」)
○棚橋 麗未 (「しらゆり句会」)
○中塚 唯人 (海紅「海紅社句会」)
南家歌也子 (「ぎんなん」)
野田麻由可 (「層雲自由律」)
原 さつき (「萌句会」)
原 鈴子 (海紅「赤壺詩社」)
日野 百草 (海紅「海紅社句会」)
○平岡久美子 (「ぎんなん」・「青穂」・「ロマネコンテ」)
福田 幸子 (海紅「鹿沼自由律クラブ」)
藤井 雪兔 (青穂)
堀切 博昭 (「ぎんなん」)
正木 土易 (海紅・四日市)
○三沢 昭夫 (海紅・東京)
三好 利幸 (「青穂」・「きやらぼく」)
森 命 (海紅・岐阜)
ゆきいちご (「青穂」・「きやらぼく」)
○よこたまさみち
○吉多 紀彦 (「ぎんなん」)
若木はるか (海紅・山形)

◆はじめに◆

中塚 唯人

今回は投句者三十七名、当日出席者 3 名の方のご協力をいただきました。
心から御礼申し上げます。

句会は「海紅」の田中耕司さんと小笠原玉虫さんの丁々発止の軽快な進行により始まりました。

いつもの通りあらかじめ頂いた投句を投句者全員で選をし、その結果について当日参加できなかった方のご意見も参考にし、上位句を中心に、その後は時間が許す限り、より多くの句について話し合いました。

当日は初参加の三沢氏も交え、自由な雰囲気のもとに一人一人の忌憚のない発言を得て、闊達な話し合いが出来たように思います。今後もっともっと多くの方の参座を得て、いろいろなご意見、特に若い人達の声が聞けたらばと思います。

またこれからのこの会のあり方などご意見がありますればどしどしご発言をお願いいたします。

まずは皆さんからいただいた玉句を詠草集として纏めましたので力作七十四句を鑑賞下さい。

第十六回自由律俳句フォーラム詠草集

- 1 老妻の細き手で肩もまれ夢路に就く 堀切 博昭
- 2 葉桜止まらぬ君の手シロコロホルモン 石川 聡
- 3 目を瞑る 一人の嘘つきがいる 日野 百草
- 4 鳴砂の浜よ俺らに代わりもつと泣け よこたまさみち
- 5 壁は蹴るのではなく殴らねばならない痛い 藤井 雪兎
- 6 飛び出たミミズが抗議する鋏先に春風 原 鈴子
- 7 飛び交う会話の谷間に沈む 吉多 紀彦
- 8 日差しに輝くフロントガラスに鳥の糞 笠原マヒト
- 9 答えもないが本屋へ今日も 小笠原玉虫
- 10 冬蝶になっても嘘つくか 野田麻由可
- 11 卒業式終わり教室の窓空きしまま よこたまさみち
- 12 喪服の私へタクシー花自慢たしかに空明るくて
大川 崇譜
- 13 赤いのれん千切れたのれん恋猫たむろ 梶原 由紀
- 14 小川の眩くラップ本番もうすぐ見てろよ待ってろよ
若木はるか

- 15 署名素通りとしよりもとんがっている 平岡久美子
- 16 春になる電話をかけてしまう 小笠原玉虫
- 17 手水が枯れていたビルの谷間の神社 笠原マヒト
- 18 自転車たち羽化して雨上がり 梶原 由紀
- 19 耳奥でねじを巻く音月明かり 野田麻由可
- 20 止められない花がひらいてゆく 正木 土易
- 21 子の後姿が遠ざかる雪明りの道 島田 茶々
- 22 三月の肩甲骨に羽根が生えてきた 正木 土易
- 23 今日の散歩嘘がふらつく 萱沼 良行
- 24 好き嫌い激しく生きてどくだみ咲く 島田 茶々
- 25 古刹の孔雀白梅と咲き競う 白松いちろう
- 26 建前論裏にひっそりむべの花 黒瀬 文子
- 27 金に困らない顔相ネ馬（マー）さん唾とばし中華街
大川 崇譜
- 28 記憶の糸垂らし釣り上げ放つ 黒瀬 文子
- 29 寒の鬼へ春のつづて 佐瀬 広隆
- 30 街灯の消えぬ早暁春を歩む 堀切 博昭
- 31 過去にさよならと言われたの 萱沼 良行
- 32 歌声しか知らない人と話した 藤井 雪兎
- 33 牡丹の紅い芽のよじれ春の羽化 若木はるか
- 34 雲の角が溶けて雨水（うすい） 白松いちろう
- 35 れんぎょうは少し控えめにすればいいのに
田中 耕司
- 36 ラッシュアワー少女達は春の手話 平岡久美子
- 37 余命の話と芥子菜と少し辛くてあふれる涙
福田 幸子
- 38 病む胸夏に寄りそえず逡巡 原 さつき
- 39 病む姉の枕にかざる紙雛 三沢 昭夫
- 40 もういいかいまあただよ終戦忌^{しゅうせんき} 井尾 良子
- 41 民芸店にただずまいもよし春浅し 渥美ゆかり
- 42 頬に腫に花びら溜めて桜アンパン頬張る母と
福田 幸子
- 43 保護されたカタクリ忘れちゃいけない花大根
森 命

- 44 べにこぶしおだやかお彼岸お中日 田中 耕司
 45 糞糞に万両の種ありヒヨの無礼を許す 中塚 唯人
 46 ふるさとに拾う羽再出発の鳥になる 菅原 瓊子
 47 春に追われるまえ心の崩れは積みなおす 森 命
 48 はらり紫木蓮のにじむ純情雨あがり 石川 聡
 49 白鳥帰る手を振る僕が輝く 高橋登紀夫
 50 人參があまりにも甘いので生き方かえる 鈴木 和枝
 51 日本中お国自慢の桜かな 三沢 昭夫
 52 にがいあのときの名簿を焼く 吉多 紀彦
 53 とどまらぬ人もやどかりも仮設 日野 百草
 54 たんぽぽなんのために生きていますのかわかった

南家歌也子

- 55 だれもないそらのアオオニのなまくび 三好 利幸
 56 青春の深紅のドレスは捨てないでおく ゆきいちご
 57 すっとと土筆ん坊暗い詩は好かない 小山 智庸
 58 山頭火時々しっぽ確かめる 井尾 良子
 59 桜咲こうとしているあなたが好きだから 鈴木 和枝
 60 桜さいて私の両手になにもない 中塚 唯人
 61 今年も同じ花が咲き鳥は歌うけれど 南家歌也子
 62 風は花枝をゆらし空青くする 瀧美ゆかり
 63 限りある命の色は秋田蒨ときめる 高橋登紀夫
 64 親子とて笑うところの撥ねる猫のしっぽ ゆきいちご
 65 音もなく浸食され透視図の街角に立つ人 三好 利幸
 66 エゾタンポポの小さな冠日をもろう 小山 智庸
 67 祈る平和のブランコ妖怪ゆらす 菅原 瓊子
 68 いぬふぐり控えめに咲き咲く公平に 原 鈴子
 69 生きること死ぬこと考える蓬餅 棚橋 麗未
 70 いい話集めて春の便りにする 棚橋 麗未
 71 曖昧な相づちスプーンで溶かす 原 さつき
 72 旅の白雲ひばり上がる空へほどける 佐瀬 広隆
 73 泣き桜涙ためて海になる 杉本ゆきこ
 74 道路の花びら傷跡に舞い転がる 杉本ゆきこ

【第十六回自由律俳句レポート】 小笠原玉虫

今回田中耕司さんと句会の進行を任されましたので出席の皆さんと選句用紙に書き込んで頂いた投句者の皆様の句評も含めて、上位十句についての紹介をしていきたいと思ひます。

一位 いい話集めて春の便りにする 棚橋 麗未

「優しい言葉で、すっと入ってくる句」「素直で平明な言葉で胸を打つ」と非常に人気のある句でした。

「いい話集めて、ということは、実際はいい話ばかりではないところを敢えて集めたということなのでしょう。そういうところが皆の共感を集めたのではないのでしょうか」という意見に、会場の皆さんも深く頷いておられました。

また、助詞の使い方でも議論が巻き起こりました。「いい話「を」としなかったのは何故か」「いい話を集め」も可か否か、など、活発に議論されました。

二位 三月の肩甲骨に羽根が生えてきた 正木 土易

「明るく前向きな印象に好感を持つ」という意見が多数でした。春という新しい季節に飛び立っていく、という印象を持った方が多いようです。

また、「西洋絵画の天使を思い出した。けれども、人体が翼を持って飛ぶには、あの絵画の羽根では小さすぎて無理という話があります。なので、これは翼を持ちつつ飛べない、と、暗に言っているのではないか」という、穿った意見も出ました。

ほかに、「肩甲骨の辺りが強張っていると、体が固くなるそうです。なので、実はこれまで大変なことがあったと仄めかしているのかもしれない。そしていまからは飛び立つ、という決意なのではないか」という解釈も出ました。

人によって句の背景に対する解釈が異なるところが面白いですね！

三位 飛び交う会話の谷間に沈む 吉多 紀彦

こういう場面はよく分かる、と共感者が多かった句。また「飛び交う／会話の／谷間に／沈む」の拍がいいとの指摘もあり。そこで、自由律俳句におけるリズム・律・拍に対する議論が発生しました。「拍の良さにより、一層、読者に鋭く突き刺さってくる」という意見に、皆さん賛成しておられました。詠み人の吉多さんご本人は「拍の良さへ寄りかかりすぎたという思いがあり、最後の「沈む」

を別の言葉に出来ないか、かなり考えましたが、やはり「沈む」という語を使い
たかったので、このかたちになりました」と語っておられました。

四位 桜さいて私の両手になにもない 中塚 唯人

桜と富士はみんなが詠むので一層句材として難しい、という話で盛り上がりま
した。「桜を祝福的に詠むことは当たり前すぎる。桜と「両手が空っぽ」とを対
比させたのが良くて入れました」という意見に、皆さん頷いておられました。

が、一方でいつもの中塚さんらしくない句だね、という指摘もありました。「点
取りにいつちやったんじゃないの(笑)」

中塚「そうかもしれない(笑)」とのことでした。

「ない」、で終わるのが自由律俳句っぽいですね。自由律俳句のひとつの定型
という気もします。

五位の句は同点句が五句ありました。

五位 答えもないが本屋へ今日も 小笠原 玉虫

内容に対する共感者は多く、三人から特選をいただく結果に。

問題点としては、「季節を感じない。季語を使わず、それでいて季節の感じが
ふわあっと漂ってくるようだよかった」「最後の「今日も」がどうも引っ掛か
る。これは言いすぎだったのでは。今日も、という部分がいちばん言いたかった
のかもしれないが、ここは読者に委ねてもよかったのかもしれない。最後に今日
も、がくることでリズムが悪くなっている

というご指摘を頂きました。

小笠原「確かに「今日も」には蛇足感がありますね(汗)」

五位 止められない花がひらいてゆく 正木 土易

当日会場で非常に人気のある句でした。「平明な言葉で花の生命感を表してい
て、明るく、前向きかつ匂い立つような良さがある」との評。

「止められない」という語は何を表しているのか、という部分で意見が別れまし
た。開き、そして散ったり枯れたりに向かっていくので、いちばんの盛りで止め
てしまいたいのか、それとも誰にも止められない「花がひらいてゆく」ことをじ
っと見つめることで、花の生命力を賛美しているのか、人によって受け取り方が
ちがって非常に興味深かったです。小笠原「もしかしてバレ句なのかな? と思
いました。最初見たとき」「これをバレ句って思っちゃうってちょっとどうな
ってんの(笑) 考えすぎじゃない?(笑)」

五位 好き嫌い激しく生きてどくだみ咲く 島田 茶々

内容に共感者が多い句でした。「生きてという動詞の主は詠み人。咲くはどくだみ。動詞が二つあって動作の主が二通りで、非常にブレがあるように感じて気になって仕方がない。 最後、名詞にしたらどうか」ということで、「どくだみの花」や、「どくだみの白」はどうか、ということで活発に意見交換がされました。

ただし「動詞が二つあることは必ずしもブレにはならない」というご意見もありました。また「好き嫌い激しい、と、どくだみが付きすぎではないか」というご意見もありました。

五位 ラッシュアワー少女達は春の手話 平岡 久美子

明るい景に好感を持つ人多数の句でした。手話を使うことにより、ラッシュアワーという憂鬱な時間帯にも、自分たちの世界にこもって明るく楽しく、軽やかに過ごしている少女たちの姿がぐっとくる、という点で意見が一致しました。それが「少女」の景であることもよいと。障害を持つ方に対する世の中の状態もよい方向に変わりつつあるのかもしれない、という意見も出ました。この光景にふと目を止めた詠み人の鋭敏な感覚にも拍手を贈りたくなる句ですね。

五位 曖昧な相づちスプーンで溶かす 原 さつき

こちらも光景に非常に多くの共感が集まりました。スプーンで溶かしているのが誰かで、解釈も変わるという意見も。詠み人であればちょっとうつつとしながら共感を覚え、そういうカップルを詠み人が観察しているのだとしたら、ちょっと可笑し味が出るねというご意見。

また、句の表記に関する議論が活発に行われました。「曖昧、相づち部分をひらがなやカタカナにすると、句の印象がだいぶ変わってくる。句を作るときはここまで意識出来るとかなり句作が変わってくるよ」そして、縦書き・横書きの印象のちがいや、最近の句作はPCで行われることが増えてきたため、自分では書けない漢字でも簡単に句に盛り込んでしまうということに対する問題点について、盛んに議論されました。表記に対する問題提示をした興味深い句となりました。

【上位句以外の作品について】

田中 耕司

今回の結果では、七ポイントを得た作品が五句もあって入賞の境目になっていた。この七ポイントが、三十七人の出句、三十六名の選句結果として多いのか少ないのかは考え方によって違うのだろうが、おおよその結果として七名くらいの賛成を得られる作品でなければ上位への入賞はかなわないということだと思われる。

過去にさよならと言われたの

萱沼 良行

この作品が次点（六ポイント）でありながら、取り上げずに終わらせてしまったのが今回最大の失敗と思っています。萱沼氏が欠席されたためですがやはり何名かの意見を聞いて、萱沼氏へ報告すべきであったと反省しています。少なくとも一票を投じた黒瀬さんが出席されていたのだからご意見をうかがうべきでした。それでは当日取り上げたいいくつかの作品について書いていきます。

自転車たち羽化して雨上がり

梶原 由紀

賛成三名のうち特選としたのが二名の五ポイント。自転車が羽化するという発想を受け入れられるかどうか賛成の分かれ目のように感じた。私は、羽化と雨上がりが関連しすぎのように思ってしまった、どうしても自分の古さを思い知らされています。

にがいあのときの名簿を焼く

吉多 紀彦

この作品も、梶原作品と同じく賛成三名のうち特選二名の五ポイント、同じ吉多作品で三位入賞作品にも賛成していた小笠原玉虫さん一押し的一句。吉多作品のリズム感（等時拍といわれる）が非常に好みであるという玉虫さんに、唯人氏から等時拍についての細かい説明があったが、等時拍についての研究などもこれから取り上げて行ってもよいのではと思った。

このほか、次に挙げた作品が五ポイントを得ています。

卒業式終わり教室の窓空きしまま

よこたまさみち

人参があまりにも甘いので生き方かえる

鈴木 和枝

春になる電話をかけてしまう

小笠原玉虫

このほかに、面白いと思った作品のいくつかを取り上げてみた。

だれもないそらのアオオニのなまくび 三好 利幸

この作品を特選としたのが大川崇譜さんで彼女の作品は

金に困らない顔相ネ馬（マー）さん唾とばし中華街

このような発想を持ちたくても私にはもうとても無理だと思うのだが、このあたりにこれからの自由律の行くべき方向が見えてくるのかもしれないと思うのは間違いでもないと思っている。

建前論裏にひっそりむべの花

黒瀬 文子

民芸店たたずまいもよし春浅し

渥美ゆかり

渥美作品は吉多氏が特選に選んでいる、それがどうというわけではないが、このような作品（私にはほとんど定型俳句に思える）を高い評価をしている人が居るのも大事なことなのだと思う。

句会のあとで、参加者が減り続けている現状について打開策はないのか考えてみたが、決め手になる案は出なかった。ぎんなんの吉多さんと、佐瀬さんのご意見を聞いていて「自由律句のひろば」に感じていた漠然とした違和感の原因が理解できたように感じた。いずれにしてもせつかく作った機会を生かせるような工夫を皆で考えて、原点回帰を第一に考える時が来ているのではないかなと思った。

十六回東京自由律俳句フォーラム

（主催 東京自由律俳句会）

平成二十八年七月吉日発行

発行者 中塚 唯人

発行所 〒一五四—〇〇—一二

東京都世田谷区駒沢二—二八—四

電話・FAX 〇三一三四二二—六九六二

メールアドレス tadato8008@nifty

【第十七回自由律俳句フォーラムお知らせ】

今回は句会と勉強会の開催の予定となります。勉強会の内容については後日お知らせ致します。

投句頂いた句を後日に投句者全員で互選をし、得点一位句には大賞として、二、三位の方にもささやかですがクオカードを贈呈いたします。

奮っての投句と、最近参座者が少なく近隣の方は自由闊達な意見の交換で句会を盛り上げるためにも、当日会場への参加をお誘い合わせのうえ是非よろしく願い申し上げます。

1, 日 時 平成 28 年 11 月 23 日 (祝) 午後 1 時半より 5 時まで

※会場には 20 分前までにご参集下さい。

2, 会 場 江東区 芭蕉記念館・分館会議室(お間違えなきよう)

〒135-0006 東京都江東区常盤 1-6-3

電話 03-3631-1448

地下鉄都営大江戸線 森下駅 A1 出口より徒歩 8 分

東京メトロ半蔵門線 清澄白河駅清澄通り改札 A1 出口徒歩 8 分

3, 参加費 1.000 円 (資料代含む)

4, 出句料 1.000 円—2 句 1 組で未発表のもの (公平を期するために大会当日まで句会や他所での発表はお慎み下さい)

※出句のみの方は 1.000 円を郵便振替口座 00170-6-38652 海紅社宛
ご送金下さい。後日大会内容を小誌に纏めお送りします。

※当日参加される方は合計 2.000 円(出句無しで参加だけの方は
1.000 円)を会場でも精算出来ます。

5, 応募要項 官製葉書に下記要領で①～⑤までご記入下さい。 (同様式にてメール・FAX も可。tadato8008@nifty.com アドレスへ)

自由律俳句フォーラム申し込みとお書きになり、

① 氏名 (所属会名) ②〒住所 電話番号 ③投句二句

④当日の出・欠 ⑤懇親会 出・欠(どちらかお書き下さい)

※懇親会は会の終了後、引き続き同所か別会場で行います。(費用 1.500 円)

6, 送付先 〒154-0012 東京都世田谷区駒沢 2-28-14

海紅社 中塚唯人宛 電話・FAX : 03-3422-6962

(メールの場合は tadato8008@nifty.com アドレスへ)

7, 締切 平成 28 年 9 月 30 日 (期限厳守でお願いします。)

8, 主催 東京自由律俳句会